

Ⅱ 青少年教育

地 域 の 子 育 て

築上町青少年育成会議 顧 問 首藤 萬壽美

築上町は、豊かな緑の山々に囲まれ、周防灘を望む自然豊かな農業地帯です。

ご多分にもれず、少子高齢化が進み、子供の数は年々減少傾向にあります。

子供の元気な声や笑い声が聞こえない町は、町全体が衰退してゆくのが目に見えています。今こそ、地域の大人たちが、力を合わせて子育てに取り組まなければなりません。

築城公民館は、築城中学校、築城小学校の区域に、住民の生涯学習の拠点として、永年利用されています。平成13年に、福岡県の事業として「アンビシャス広場づくり事業」が発足されて以来、さっそく築城アンビシャス広場の開設の運びとなりました。

広場推進委員さんを、各種団体、PTA の皆さんにお願いをして、「地域ぐるみで子育てをしよう」を目標に、多くのボランティアの方々の協力を得て、月、水、木、土の週5日間の広場を開催しています。放課後、子供たちが広場に集まりのびのびと卓球、読書、手遊びをして、指導員さんの見守り中で、時間を過ごします。

中学生と小学生の子どもが、仲良く遊ぶ中で挨拶の大切さや、お互いに譲り合う気持ち育っているようです。夏休みには、絵画教室、習字教室、料理教室を実践しています。料理教室では、パスタ作りやそうめん流しをしており、パスタは小麦粉から練り上げてパスタの麺を作ります。顔や手を粉で汚しながら、みんなで作ったナポリタンやめんたいパスタを食べるときの子ども達の笑顔が私たちを元気にしてくれます。

昨年度から、5・6年生を対象に通学合宿も始めました。22年度は、築城小学校のみの募集でしたが、23年度は上城井小学校、下城井小学校も加えて築城地区にある3つの小学校合同で実践しました。4泊5日の合宿の期間に学校の枠を超えて、みんなと触れあい友情あふれる出会いが出来たことは、来年に中学校に入学した時に大きな絆の始まりになることでしょう。

朝食、夕食を自分たちでつくり、洗濯も盥と洗濯板で洗うのに最初は戸惑っていましたが、合宿が終わる頃にはとても上手になりました。入浴は近隣の民家に3、4人ずつ分かれてもらい湯に行き、知らないお家にもらい湯するので少し心配しましたが、提供して下さったお家の方の優しさにふれて身体もポカポカ、心もホッコリと温まって良い経験になったようです。

築上町青少年健全育成協議会では、20年前から補導員の指導のもと、夜間巡回を月2回行っています。深夜の徘徊や不純交友等の抑止力の一翼を担っており、15年ほど前には、シンナーの蔓延や窃盗暴走行為等で、荒れていた時期がありました。

当時は、週4日巡回を行い警察の協力もあり、3年ほどで落ちつきました。今は、地域の皆さんのお陰ですっかり落ちついていきます。

しかし、地域の大人と子どもたちが心を通わせることができれば、子どもの心の痛みを知る事は出来ません。では、今の私たちに出来ることは、何でしょうか。だんだん少なくなってゆく子どもたちが、本当の意味で心豊かに明るく希望を持って生きて行けるように、大人はどうすべきでしょうか。

いつも、子どもたちを見ていなければ心の変化には気づきません。何か、事件が起こったり突然、反抗的になったりしてからでは遅すぎます。子どもたちからの SOS をいかに早くキャッチする事が出来るか、考えてみたいと思います。そんな思いに駆られて7年前から、朝、登校して来る中学生を校門の前で「おはようございます」の挨拶で迎えることにしました。

最初は、私ひとりでしたが、そのうち、民生児童委員の方や4年前からは、中学校の保護者の方、地域のボランティアの人と賛同して下さる方が増えて、現在に至っています。

最初は、声をかけても無視をされていましたが、毎日続けていると大きな声で応えてくれるようになり、今では、会話も出来るようになりました。卒業して、高校生になっても、就職して社会人になっても、町で会えば気軽に声を掛けあって挨拶をしてくれる、そんな挨拶運動の成果が出来ました。

シンナーに侵され、窃盗を繰り返していた少年が、鑑別所を出て更生して大きなおなかを抱えた彼女を連れて「おばちゃん、心配かけたけど俺も結婚するよ、子どももできるから、昔みたいなことはせんからね」と、訪ねてくれた時は本当に嬉しかったし、大きな喜びでした。出来る事はどんなに些細なことでも、継続して地域の大人が子どもを見守っていけば、子どもたちはそれに応えてくれます。そのことを信じて、雨や雪が降っても、寒くても、暑くても、身体が続く限り挨拶運動は続けて行きたいと思っています。